※令和４年度以降入学生用

学校番号	404

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	(学)ピアノ実習	単位数	2 単位	年次	3 年次
使用教科書	プリント配布（運指、幼児教育使用の童謡）						
副教材等	「標準バイエルピアノ教則本　全音ピアノライブラリー」(全音楽譜出版社)　「やさしく弾けるピアノ伴奏保育の歌」　（新星出版社）から一部						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

ピアノ実習では、基本的な運指（指の運び方）や音符の読み方を学び、実際に幼児教育の現場で使用する楽曲を演奏します。楽器の技術を習得するためには、毎日コツコツと練習する時間と気持ちが必要です。また、演奏できなかった楽曲を演奏できるようになったとき、できるようになった理由を考えることが理解することと関係しています。
技術の習得には個人差があります。幼児・教育関係の学校に進学する予定の皆さんは、入学後、必ず楽器のレッスンがありますので、授業だけでなく外部でレッスンを受けるなどしましょう。

2　学習の到達目標

音楽表現と鑑賞の学習を通して，以下に示す（ア）（イ）を学習の到達目標とします。(1) 楽譜の読み方の習得 と(2)運指の技術の学習を通して、（ア）演奏における客観性と多様性について理解を深めるとともに、理解したことを生かした演奏をするために必要な技能を身に付けるようにする、（イ）音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・音楽を形づくっている要素の働きやその効果などに関する思考力、判断力、表現力を身に付けている。	・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。 ・音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号について，音楽における働きと関わらせを理解している。	主体的・協動的に器楽の技術を習得する学習活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	表現	・鍵盤の位置などを学習 ・音の聞き取り ・基本的な運指(バイエルの学習) ・旋律を弾く技術の習得(片手ずつ)	(a) 音楽を形づくっている要素の働きやその効果などに関する思考力、判断力、表現力を身に付けている。 (b)音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号について，音楽における働きと関わらせを理解している。 (c)主体的・協動的に器楽の技術を習得する学習活動に取り組もうとしている。	習熟度チェック 取り組み状況 実技試験	実技試験 取り組み状況 協働的な学習(運指)	ワークシート記入 観察法 取り組み状況
2学期	表現	・旋律を弾く技術の習得 ・ピアノを弾きながら歌う練習(弾き歌い) ・強弱・テンポを学ぶ ・童謡の学習	(a) 音楽を形づくっている要素の働きやその効果などに関する思考力、判断力、表現力を身に付けている。 (b)音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。 音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号について,音楽における働きと関わらせを理解している。 (c)主体的・協動的に器楽の技術を習得する学習活動に取り組もうとしている。	習熟度チェック 実技試験 取り組み状況	実技試験 取り組み状況 協働的な学習(テンポや強弱)	ワークシート記入 観察法 取り組み状況

※令和４年度以降入学生用

3学期		・バイエル教則本と幼児教育現場で使用する楽曲の学習 ・実際に幼児教育の現場で使用されている楽曲を使った実習	(a) 音楽を形づくっている要素の働きやその効果などに関する思考力、判断力、表現力を身に付けている。 (b)音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。 音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号について,音楽における働きと関わらせを理解している。 (c)主体的・協動的に器楽の技術を習得する学習活動に取り組もうとしている。	習熟度チェック 実技試験 取り組み状況	実技試験 取り組み状況 協働的な学習 (楽曲の構成や視唱・視の進め方)	ワークシート記入 観察法 取り組み状況

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度